

ICCE19 の準備状況に関して、報告があった（文末添付の資料参照）

なお、以下の補足があった

・プレナリーは 2021 年準備段階のものを打診中。一方、ジェンダー・国籍バランスの問題があるため、当時には計画していた小林賞・奨励賞講演は ICCE では行わず、別途 1 名選考中（＝別途その年の受賞者の講演機会が必要）。

参加費について

Early で一般 75000 円（約 500 ドル）、学生 35,000-40,000 円の設定。

→反対意見は出なかった。

現在国内参加者には高く、海外参加者には安い金額

欧米以外の参加国でも違和感なく参加できる感覚の金額であるとの共通認識

学生に関してはアルバイトに積極的に参加していただくことで、最終的に 10000 円程度の参加費になるように検討予定

ICCE の参加費は今後実行委員会の方で確定させる。

今後検討すべきこと（ワーキングを立ち上げる）

- ・総額、支援対象、承認のステップ、キャッシュバックの仕方（ディスカウントコード？）
- ・発表の有無に応じて支援額を変えるかどうかとも要検討

本支援の提案に関し、JSCE から 350 万円支出する役員会の本議案は幹事 14 名の賛成で可決（反対意見無し）。

さらに、会計幹事より、40 万程度通常の学会開催補助として追加支援可能かもしれないとのコメントがあった。

今後、総会に進む前に、総会に参加しない一般会員からも意見をもらえる機会をつくる予定

その他にも有効に会費を使うアイデアは引き続き募集中。賞関連 GCE の総説オープンアクセス料支出も提案された(\$3440/本)。

## 添付資料

### ICCE19 出席者への日本比較内分泌学会からの支援についての検討

2025年7月8－12日に、仙台国際センターにて日本比較内分泌学会が責任団体として国際比較内分泌学会議が開催される。

ICCE19の実行委員会での議論において、国際学会の参加費であること、昨今の物価高と円安から、一般参加費を500ドル程度に設定することが検討されている。この金額は、今後開催が予定されている関連国際会議と比べても同等（もしくは規模からすると安い）であり、外国人研究者にヒアリングしても妥当であるとの意見をもらっている。学生会員に関しても、当初はかなり安い設定を考えていたが、これも国際標準から一般の半額（これでも他の学会と比べると安い）とする予定である。

ただしこの場合、現在の為替レートから、日本円では一般75000円、学生35000円程度となってしまう。現在、日本人が国際会議に出席する場合にはこのような登録料を支払うが、ICCE19にはできるだけ多くの比較内分泌学会員に参加して欲しいという観点からはマイナス要因となってしまう。円安だからといって、国内外で異なる登録料を設定することもできない。

このような背景から、日本比較内分泌学会の会員が参加しやすくなるよう、ICCE19の実行委員会から以下の提案があった

一般 early は500ドル(75,000円程度)、学生も一般の半額程度(35,000円)に設定せざるをえないことから、日本比較内分泌学会から会員に対して登録料の補助を検討してもらえないだろうか。ICCE19実行委員会では、できるだけ運営を自前のリソースで行うことを考えており、参加する大学院生に対して大会運営補助(会場運営)を委託し、アルバイト代を支払うことで参加費の補助とすることも検討している(資料2 4/8 実行委員会議)。

ちなみに、日本比較内分泌学会からはICCE19に対してすでに229万3,932円支出している。このうち122万6,622円は、ホームページ作成費やISSの事務局費など、延期前の準備金として支出済みで、残額は106万7,310円(R4=2022年8月8日時点)

そこで、今回、日本比較内分泌学会役員会に対して以下のことを提案する(ICCE19事務局長ではなく、日本比較内分泌学会会長として)

現在日本比較内分泌学会会計の残額は5,706,022円(2024年5月4日時点)。元々あった繰越金に加えて、3年前に学会誌の完全電子化で大幅に合理化できたことで繰越金が大きく増加した。また年次大会実行委員のみなさんの努力により、大会運営の補助費も余剰金としてICCE19目的で学会に寄付され、これらの多くはすでにICCE19準備金としてICCE19会計に移されている(上記参照)。以上のことから、繰越金は増加傾向にあり、近年では500万円以上となっている(2020年度: 493万2,465円; 2021年度: 551万5,308円; 2022年度511万5,985円; 2023年度: 552万669円)。

学会としては、単年度予算以上の繰越金は不健全であり、学会員のメリットとなる活動に使いたい。  
(参考までに、公益社団法人の規則では『繰越金は一年分の年間支出の額を超えてはならない』というのがあるため、それが目安として適切だと考える→350万円程度消化するのが健全)

近年の日本比較内分泌学会の単年度会計は約200万円であることから、繰越金との差額の350万円を、日本比較内分泌学会員がICCE19に参加することに対する補助に使用することを提案する。ICCE19は、2025年度の日本比較内分泌学会年次大会を兼ねることから、できるだけ多くの会員が参加する環境作りは、会費を有効に活用することと矛盾しないと考えます。

・今回、日本比較内分泌学会会員向けの参加費補助として、350万円の支出を日本比較内分泌学会から行うことを検討したい。特に学生会員や若手の一般会員に対して厚く補助することではどうだろうか。ひとり2万円(若手の一般会員は25000円)と考えれば、一般会費5万円、学生会費1万5千円となる。少なくとも150人程度の補助が可能。シニア・中堅に対しても支援を行うこと(これまでたくさんの会費を払ってきた人達なので)、若手の定義、支援の金額などについては、役員会で議論していきたい。

・その他にも有用な活用法の提案があれば検討したい。

・これを実施する場合には、補助の可否を審査する委員会をつくり、会員は委員会に対して補助を申請するという仕組みにするか。

・今回の役員会では、1)登録料についてこの金額で進めてよいかどうか、2)大きく膨らんだ繰越金を活用して日本比較内分泌学会員のICCE19への参加補助をすることについての可否、について審議・決定したい。支援対象や金額についてはこのあと議論をすることとし、8月の函館大会の総会で最終決定したい。ただし、金額が大きく、函館大会に参加する会員の意見だけで進めることには危険があるため、事前に会員には総会での議題として周知し、意見を言えるようにしておきたい。

上記の通り、ICCE19実行委員会では、会期中の学生・ポスドクアルバイトを募集する予定。仮にアルバイト代として10,000円を得られれば、学生は毎年の国内大会参加費で国際会議に出席できることになる。